

KIRP

2021年度
事業報告書

京都府立大学
京都地域未来
創造センター

2021 REPORT
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS

京都府立大学の「知」を活かし、 地域の未来を共に創るための拠点です

これから地球と地域が直面する問題を考える際には、「展望する=未来をデザインする」という発想が欠かせません。京都地域未来創造センター(Kyoto Institute for Regional Prospects)の「未来」は、futureではなくprospectsです。

prospectsは「前を(pro)見る(spect)→展望する」という意味があり、複数形にすることで、「可能性、将来性」、さらには「有望な人材」の意味もあります。

京都地域未来創造センターでは、本学の特徴である教職員と学生の顔の見える関係の中で培ったネットワークを活かし、地域の文化・歴史・伝統に基づく「こと」づくり、新しいテクノロジーや考えを活かした「もの」づくり、地域の生物資源などの特性評価や分析に基づく「価値」づくり、さらには公共政策と連動した新しい「社会システム」づくり、地域の課題解決を担う「ひと」づくりに至るまで、京都府の公立大学の地域連携の総合窓口として、未来を多面的に展望して、持続可能な地域づくりに貢献します。

センター長 挨拶

平素より、皆さまには当センターの良きパートナーとして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響によって、活動の制約を余儀なくされましたが、当センターの柱となる4つの事業分野（調査研究、人材育成、情報発信、地域協働）のいずれにおいても、地域貢献に資する活動を精力的に行って参りました。

中でも、当センターにとって、新たな挑戦となったのは、地域公共人材の創出を目的に試行的に始めた「場づくりLabo」です。これまで以上に大学と府内地域との接点を増やし、人と人を結び、知を共有して地域社会が直面する様々な課題を解決していく。当センターはそういう存在になるべきであり、またその際に対話を重視したいという思いからこの事業を新たに立ち上げました。対話を次世代につながる新しい価値の創造につなげるためにも、多様な人々が集まり、意見を交わす場をつくる必要があります。

詳しくは、本文の紹介欄をご覧くださいのですが、今年度は南山城村のキーパーソンにご協力を得ながら、地域商社としての「道の駅みなみやましろ村」が人や組織をつなぐ場としてどのような役割を果たしているのか、実際に村を見て歩き、話を聞くなどして、参加者で意見交換を行いました。コロナ禍でプログラム内容も参加人数も制限しての開催となりましたが、当センターが行う人材育成事業の新たな一歩として、有意義な場となりました。

今年度はセンターのウェブサイトを開設して、当センターの地域貢献活動の「見える化」にも努めました。ウェブサイトの機能はもとより、順次コンテンツの充実も図っていますので、少しずつ当センターの活動に関心を持って頂ける方々を増や

していけたらと思っています。Instagramの公式アカウントも新たに開設いたしましたので、これまであまりアクセス頂けなかった皆様にも情報を積極的にお届けして、当センターの関係人口の拡大・ネットワーク化にも努めて参りたいと思います。

本事業報告書では、このような事業以外にも今年度に行った様々な活動の成果を取りまとめておりますので、ぜひご覧いただければ幸甚です。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



京都地域未来創造センター長
川勝健志
副学長、公共政策学部教授

副センター長・
統括マネージャー
挨拶



副センター長
宮藤久士
生命環境科学研究科教授

2021年度は昨年度に引き続き、いまだに収束を見ないコロナウイルス感染症の蔓延に翻弄された1年であったように感じます。リモートが急速に普及し、様々な物事を対面ではなく画面越しで感じるが多くなりました。京都地域未来創造センター（KIRP）でも活動が制限されることもございましたが、決してネガティブなことだけではないと思っております。

我々が目指すまちづくり、人づくりにおいては、海外も含め遠くの、そしてより多くの方々とあまり時間を気にせずにつながれるというポジティブな側面もあると感じております。このような空間的、時間的な垣根が低くなったことで、明るい未来を創造できる、より多くの機会が生まれているのではないかと感じております。対面でのメリット、リモートでのメリットを上手に生かした新しい視点で、今後も地域の皆様のお役に立つ貢献を続けて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2021年度もコロナ禍は続き、普段とは違う1年となりました。いや、果たしてそうでしょうか。マスク着用やオンライン利用といった生活はもはや日常となっています。もはや「withコロナ」といった言葉で騒ぐことさえなくなりました。人間の環境適応力も、なかなかのものだと思いませんか。

ただ、コロナ禍で失われつつあるものがあることも確かです。特にコミュニティ・レベルに目を向けると、地域の未来はどうなるのかという不安感が一気に増大しているように思います。不安や危機の中から未来に向けた新しい道が開かれていくことを期待したいですし、そうした地域の姿に寄り添う「知」の役割の一角にKIRPの取り組みが貢献できることが理想です。本年度の事業にはそうした貢献の種となる点がありました。今後もそれを育てていきたいと思っております。



統括マネージャー
上杉和央
文学部准教授

01

「コミュニケーションのデザイン」

2021年度、センターでは、コロナ感染症感染予防に留意しながら、京都府の北部から南部まで、自治体や地域コミュニティの方々と一緒に調査研究や実践を行ってきました。事業に関わり最も感じたことは、社会や地域コミュニティ、職場や家庭など、新型コロナウイルス感染症への対処の「差」が拡大していること、そしてそれらの対処の差が一人ひとりの暮らしや心のあり方など、経済的な側面だけでなく、心理的にも大きな影響を与えていることでした。一方で、中山間地域の方々に話を伺うなかで、住み続ける覚悟もお聞きしましたし、新しいチャレンジの萌芽も目にしました。

さて、改めて2021年度のセンター事業を振り返ってみると、キーワードは「コミュニケーションのデザイン」と表現できそうです。閉塞感を打破するための未来志向の大学の研究成果の発信、つながりや信頼感を高めるための住民同士の対話の促進など、広い意味での「コミュニケーション」の回路を、センターの強みである、自治体職員(研究員)・教職員・学生からなる混合チームで対話を重ねながら、創造してきました。

一方で、こうして地域とのパートナーとの関係性が深まっていくなかで、本センター、本学の役割についても問われる場面も増え、自問する一年でもありました。引き続き忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

(コーディネーター 鈴木暁子)



南山城村場づくりLaboの様子



南山城村場づくりLaboの様子



精華町まちあるきの様子



愛媛県狩浜調査の様子



南山城村場づくりLaboの様子



南山城村場づくりLaboの様子

02

場づくりLabo in 南山城 ～生業と地域～

自治体職員、地域づくり支援者、実践者等を対象に、住民主体のまちづくりの現場を体感してもらい、ディスカッションを通じて「地域づくり」を問い直すプログラムです。

2021年度は、宇治茶の生産地である京都府南部の南山城村で「生業と地域」をテーマに開催しました。

南山城村では2017年にオープンした「道の駅みなみやましろ村」を拠点に、住民主体で村人が暮らしつづけることができる村づくりへの取り組みが始まっています。

当日は、道の駅みなみやましろ村の運営を担う森本健次さん((株)南山城 代表取締役)の案内で、村の生業であるお茶と原木栽培の椎茸の生産現場、暮らしと生業が一体化している集落を歩きました。また、廃校になった田山小学校を会場に、若手茶農家、デザイナーなど村の価値を発信する事業者の方々や移住観光を担当の自治体職員から話を聞き、お茶を味わいながら、意見交換を行いました。今回はパイロット版の位置づけのため参加者も限定的でしたが、2022年度はブラッシュアップして開催する予定です。

「地域づくりは人づくり」を体感する場となりました。



和紅茶



まち歩き椎茸農家



まち歩き振り返りの様子



自己紹介タイムの様子



参加者と集合写真

地域貢献型特別研究(府大ACTR)

京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的として、府内各地の自治体、NPO等からの提案に基づき、地域貢献型特別研究（Academic Contribution To Region；ACTR）（以下「ACTR」という）を実施。府内各地で本学教員が、地域課題解決に向けた調査研究を行っています。2021年度は、京都府内市町村等から47件の提案があり、本学教員とマッチングが成立した研究に対して、審査員による審査会を経て21件を採択。府内各地で成果発表会を開催して、成果の発信にも努めました。

研究課題	提案者	代表者
地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究	南丹広域振興局・京都市左京区役所	上杉和央 准教授(文)
「海の京都」の拠点・宮津市由良の「船」に関わる遺産の発掘・活用－由良神社を中心に－	由良神社総代会	岸泰子 准教授(文)
丹後ちりめんアーカイブの構築	こまねこまつり実行委員会・NPO法人TEAM旦波	小林啓治 教授(文)
無病長寿の霊果といわれるムベ果実の食品機能性解析とそれを活用した地域おこし	福知山市農林業振興課	中村教授(文)
末窯跡群を中心とした夜久野地域の文化遺産・地質の調査と活用	福知山市文化・スポーツ振興課	菱田哲郎 教授(文)
海と森の京都の融合による文化観光拠点の形成 －舞鶴市東舞鶴地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用－	舞鶴地方史研究会・奥上林地区自治会連合会	横内裕人 教授(文)
久御山町の「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく町内会・自治会の活性化戦略ビジョンの提案	久御山町行財政課	藤原茂樹 准教授(公)
今後の関西文化学術研究都市における産業集積及び整備のあり方検討－精華町の学研都市建設完了を見据えたまちづくり方針の提示－	精華町企画調整課	藤原茂樹 准教授(公)
ドローンを利用した鳥獣害軽減方法の確立と果樹栽培の高度化技術開発	京都府丹後農業改良普及センター・京都府農林水産技術センター農林センター丹後農業研究所	板井章浩 教授(生)
京都在来ブドウ品種「聚楽」の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法の開発	京都府農林水産技術センター農林センター丹後農業研究所	板井章浩 教授(生)
京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化	京丹後市観光振興課・海産水産課	岩崎雅史 准教授(生)
荒廃農地で食用桜の葉(オオシマザクラ)を無農薬で収穫可能か－荒廃農地の有効活用による地域振興－	京都よさの百商一気合同会社	糟谷信彦 助教(生)
京都府産木材流通のデジタルトランスフォーメーションに向けた基礎的研究	京都府立林業大学校・南丹市農山村振興課・京都府森林組合連合会・京都府林業振興課・京都府農林水産技術センター	神代圭輔 准教授(生)
「洛いも」の地域ブランド力強化に向けた褐変抑制・低温耐性系統の作出および普及戦略の構築	精華町 産業振興課	伊達修一 講師(生)
羽毛と鶏卵卵殻膜の100%再資源化システムの開発－府内地方養鶏業発の新産業創成を目指した取り組み－		田中俊一 准教授(生)
城陽市の花「花しょうぶ」の生産現場で多発している土壌伝染性病害の防除に向けた調査研究	JA京都やましろ 城陽花き部会	辻元人 講師(生)
取り戻そう！！地域の里山植生：地域でできる里山の植生回復とモニタリング手法の開発	合同会社田歌舎	長島啓子 教授(生)
北山杉と京銘竹の標準化（規格化） －伝統工芸技術継承のための科学によるトップブランド化－	(株)アドプランツコーポレーション・京都木材協同組合	古田裕三 教授(生)
京の“ほかすモン”をいかに変えて新しい“京”を表現する	りてん堂	細矢憲 教授(生)
京都府産宇治茶の安定生産と独自性確保に貢献する生育予測研究と宇治茶品種の遺伝解析	和束町農林振興課・京都府茶業会議所・京都府農林水産技術センター・茶業研究所	森田重人 准教授(生)
京都府希少農産物を絶滅危惧から脱却させるための食品機能性実証と栽培マニュアル作成	城陽市農政課	森本拓也 准教授(生)

(文) 文学部、(公) 公共政策学部、(生) 生命環境学部

01 2021年度ポケットセミナー(ACTR成果報告会)・大学連携に関する意見交換会

京都府立大学教員と府内市町村のつながりの場づくりなどを目的に、2021年9月17日、オンラインにて10自治体の参加のもとセミナーを実施しました。

まず、生命環境科学学科の岩崎雅史准教授、文学部の横内祐人教授、公共政策学部の川勝健志教授より、大学の地域貢献の取り組みとしてACTRの研究成果をそれぞれ報告したあと、グループに分かれて大学連携について意見交換を行いました。参加者からは「他市町村と京都府立大学の連携について知ることができ、今後の大学連携にとっても参考となった」「今後はいっそう積極的に連携を推進していきたい」といった感想をいただきました。



オンラインの様子

02 2020年度ACTRパネル展示



パネル展示の様子

KIRPでは例年、府民の皆様へACTRの研究成果を広く知っていただくための企画として、府内各地において本学教員が自治体、NPO、経済団体などと連携し、地域課題解決に向けた調査研究活動に取り組んだ内容をわかりやすくポスターにまとめ、京都学・歴彩館にて展示をしております。

2021年12月1日から27日まで、22枚の2020年度ACTR成果報告のポスターを京都学ラウンジにて展示し、287人の方にお越しいただきました。

03 「2021年度精華キャンパスACTR成果発表」の開催について

2021年度に採択され、取り組んだ研究のうち、特に精華キャンパスにて積極的に取り組まれた先生の研究成果について発表する報告会を2022年3月8日に開催いたしました。

報告会では「京都在来ブドウ品種‘聚楽’の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法」や「京都府産宇治茶の安定生産と独自性確保に貢献する生育予測研究と宇治茶品種の遺伝解析」など計5テーマの研究について、2021年度においてどのような結果がみられたのかについて各々の先生方から発表いただきました。



報告会の様子

04

精華町ACTR報告会 in 精華町

「関西文化学術研究都市における産業集積及び整備のあり方—精華町域整備完了を見据えて」

2022年3月まで、精華町からの派遣で当センターの연구원として在籍していた長田研究員のACTR研究成果報告会が、精華町役場で開催されました。

精華町における最後のクラスター開発である学研狛田地区の開発が完了した時点で、精華町が財政的自立を果たせるのかどうかということ、を、「産業集積」と「人口定着」に着目して研究された内容でした。学研都市としての在り方や、現在開発中である学研狛田地区の整備の方向性の示唆を得られる大変興味深い内容でした。

報告者：長田萌(KIRP研究員)



精華町にて報告会の様子



府立大学にてプレ報告会の様子

05

ふれデミックカフェ

アカデミックな時間にふれあえる！「ふれデミックカフェ@KRP with京都府立大学」

ACTRをはじめとする本学研究者の研究成果の発信機会として、京都リサーチパークが主催するサイエンスカフェ「ふれデミックカフェ」へ本学の講師派遣を行いました。



<Vol.3> 8/24(火) 16:30-17:30

「樹を知り、木を活かす

～木質バイオマスのマテリアル利用技術～

神代圭輔 准教授 (大学院生命環境科学研究科)



<Vol.4> 3/2(水)16:30-17:30

「データサイエンスのカタチ

～世界的な潮流&城陽市・京丹後市での実践を通じて～

岩崎雅史 准教授

(大学院生命環境科学研究科/KIRPデータサイエンスアドバイザー)



01

受託事業 精華町「2021年度精華町次期総合計画策定支援」

「次期総合計画策定に向けたICT活用による小学生の意見聴取事業」

精華町の新しい第6次総合計画の策定にあたり多様な住民の意見を聴くために、山田荘小学校4年生(45名)を対象に、11月の「総合的な学習の時間」(計6回)を利用して、タブレット端末を活用した「まちあるき」と「地域情報の編集・発信」を行うワークショップを行いました。事前・事後学習では、センター教職員が「地図の見方を知ろう」「お宝さがしのヒント」「タブレット端末でデジタル地図を作ろう」をテーマにした授業を行いました。まちあるき当日は、本学学生7名(文学部歴史学科)が作成した「まちあるきマップ」を参考に、児童が8グループに分かれて各地区を歩き、気に入った風景や場所を、同行する本学学生(11名)が記録しました。その後の授業で、タブレット端末を使ってお宝マップを完成させました。児童が選んだ26件のお宝と解説文はユニークな発想や目線のものも多く、児童自身が地域の価値をどう感じているのかを把握する機会ともなりました。

デジタルマップは、位置情報(GPS)と連動したイラスト地図のプラットフォーム **Stroly** を活用しています。



体制：・川勝健志(公共政策学部教授)・上杉和央(文学部准教授)・鈴木暁子(KIRPコーディネーター)・青木和人(code for 山城)ほか



まち歩きの様子

②各地点をタップ



③児童が考えた「タイトル」と「解説文」を見ることができる



①26件の「お宝」を本学卒業生が作成したオリジナル地図にプロット



イラストマップ

受託事業+ACTR「久御山町自治会活性化戦略ビジョン策定業務」

久御山町では、2019年度に策定した「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づき、高齢化、多様化した地域コミュニティの新しいあり方の検討が進められています。その背景には、自治会加入率が年々減少するとともに、高齢単身世帯の増加や外国人労働者の増加、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響などから自治会活動の低下が危惧されていたことがあります。

このような中、青山名誉教授と生命環境学研究科岩崎准教授を中心に「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく町内会・自治会の活性化戦略ビジョンの提案に係る調査研究はスタートしました。

調査研究には、青山名誉教授担当の大学院授業「キャップストーン」を受講する大学院生3名と、NPOで活動している本学卒業生1名が年間を通じて参加し、現地での町内会・自治会へのヒアリングやワークショップの開催、住民アンケート分析、先進地調査を実施し、そこから得られた様々な知見を「自治会活性化ビジョン」としてとりまとめました。

とりわけ、先進地調査の中で得られた「ICTを活用した自治会運営のモデル事業」に関する知見は、コロナ禍における新たな自治会活動のあり方として大きな可能性を感じさせられるものでした。

今回のACTRの成果は、研究協力者である久御山町行財政課に報告書として共有し、同町の「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」の今後の施策展開に向けた基礎資料として活用される予定です。

また、次年度以降は、今年度のACTRの成果を踏まえ、ICTを活用した自治会運営に向けた町内全38自治会のカルテ作成などに取り組むこととしています。

体制：青山公三(名誉教授)・岩崎雅史(生命環境科学研究科准教授)・今堀誠弥(KIRP研究員)・松原史(生命M2)・古池郁美(生命M1)・東佳佑(公共M1)ほか



報告会・ワークショップの様子

ACTR「今後の関西文化学術研究都市における産業集積及び整備のあり方検討ー精華町の学研都市建設完了を見据えたまちづくり方針の提示ー」

関西文化学術研究都市の建設は、1987年から様々な段階を経て、京都府・大阪府・奈良県にまたがる広大な地域に12地区に分散配置される形で進められてきました。本研究の対象となる精華町においては、12の地区の中心となる「精華・西木津地区」の大半と、「平城・相楽地区」「南田辺・狛田地区」の一部が域内に位置しています。

先行研究の2019年度ACTR「関西文化学術研究都市建設が精華町に与えた効果・影響に関する研究」において、学研都市建設を受け入れた精華町がどのようなまちづくりを行ってきたか、その過程を振り返るとともに一定の総括を行い、「学研都市精華町」の概成に向けて、精華町が自立都市を目指すうえで必要なのは、「産業集積」と「人口定着」であることがわかってきました。

この継続研究である2021年度ACTRにおいては、精華町内に位置する最後のクラスター

開発である学研狛田地区の整備分譲が完了した時点で、精華町が自立したまちとしてどの程度達成できているのか、また、人口定着をどのように見通すのか、という「学研都市精華町が概成した姿」を展望するための示唆を得ることを目的として行いました。

この調査では、企業アンケートやそれに基づいた個別企業へのヒアリング及び町の固定資産関連税のデータ等を使用し、これまでの学研都市の企業立地が精華町にもたらしてきた効果を評価し、それに伴って、将来的に人口定着を図るための先行事例を調査しました。

また、これらの調査で得た結果を基に、学研狛田地区の開発によって得られる税収イメージを試算したうえで、現行のゾーニングの課題を指摘し、精華町における自立したまちづくりへの提案を行いました。

体制：長田萌(KIRP研究員)・藤原茂樹(公共政策学部准教授)ほか



参考写真

04

ACTR 京都市左京区・南丹広域振興局「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」

2019年度より実施してきた左京区を中心とする山間地域の伝統行事と地域コミュニティに関する調査がひとまずの区切りを迎えました。2021年度は南丹市美山の2地区も範囲に加え、より広域な形での調査ができたと思います。

残念ながら今年度も新型コロナウイルスの流行が収まらず、伝統行事そのものを調査することはできませんでしたが、ただ、それで調査が完全に止まったわけではありません。幸い、コロナの収束した期間もあったので、その間隙を縫いながら各伝統行事の保存会の方々への聞き取り調査を実施することができ、現状や率直な思いについて、聞くことができました。

さらに調査に参加したメンバーたちがオンライン上で集まり、各事例をふまえての課題や伝統行事／コミュニティ維持のためのキーワードになるような点を議論できたのも収穫だったと思います。

調査成果の一部については、『文化財の保存活用と地域コミュニティ』（京都府立大学文化遺産学叢書23）のなかにもまとめています。京都府立大学附属図書館に配架予定のほか、一部はオンライン上にPDF公開しています。

体制：上杉和央(文学部准教授)・鈴木暁子(KIRPコーディネーター)・

長田萌(KIRP研究員)・今堀誠弥(KIRP研究員)ほか



ヒアリングの様子



ヒアリングの様子



文化遺産叢書

05

ACTR「京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化」

素材は秀逸ながらほとんど手つかずの観光資源の1つに京丹後の海水浴場があります。

観光開発に着手すべき対象か否かの判断は、とりわけ民間主導となると、素材のポテンシャルよりも経営上の明確なメリットに力点が置かれます。

このような観光産業のあり方は近年のSNS文化の浸透により崩れ始めています。静岡県ของヒリゾ浜や高知県の柏島など、ここ数年で個人のSNSなどから一躍人気のスポットに転じたような例は枚挙にいとまがありません。

京丹後の海水浴場の集客力アップにはSNSの活用はもちろん欠かせませんが、魅力を最大限に引き出すためのデータ分析もまた重要となります。SNS戦略とデータサイエンス研究の両方を駆使することで観光開発の基盤構築をめざすというのが本研究のシナリオです。

2021年度は水深、潮流、岩礁率について現地調査を行い、海水浴場ごとの特色を数値化しました。京丹後には15もの海水浴場がありますが、それぞれが異なる“顔”をもっています。そのような豊かな多様性は他の地域では見られない京丹後ならではの大きな魅力です。水深調査では当初の予定よりもたくさんの方が集まりましたので、海水浴場ごとの海底3Dマップまで作成することができました。

2022年度には透明度、魚の分布、砂質などのデータも追加し、好みに応じた海水浴場が推薦されるようなシステムの構築を予定しています。数値データという客観的な尺度だけでなく映像からも京丹後の海水浴場の素晴らしさを“分析”しようと試みましたので、インスタ動画も是非ご覧ください。

体制：岩崎雅史(生命環境科学研究科准教授)・新庄雅斗(同志社大学理工学部助教)ほか

URL：https://www.instagram.com/ocean_sommelier_films/



Instagramはこちら



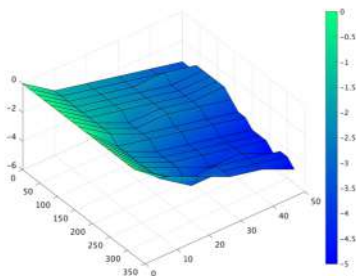
青×緑に癒やされる竹野海水浴場



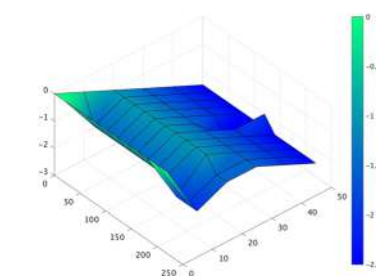
風光明媚な蒲井浜海水浴場



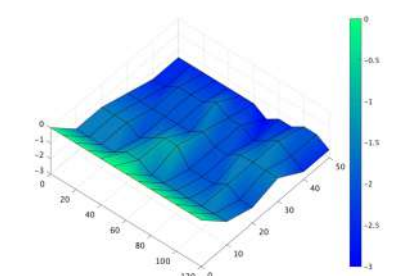
雄大な立岩を臨む立岩海水浴場



竹野海水浴場の海底3Dマップ



蒲井浜海水浴場3D



箱石浜海水浴場の海底3Dマップ

京都府内自治体等との包括協定制度

包括協定制度

包括協定とは、本学と自治体・企業等が、地域における活動や調査・研究、人材育成、産業振興、地域づくり等様々な分野において相互に協力することを目的としています。

2006年度からの包括協定の締結数は、府内市町13件、公的機関10件、民間企業5件等です(2022年4月現在)。

協定締結後はフィールド演習等の場としての活用やACTR等による共同研究、各種審議会・委員会等への参画、講演会等への講師派遣などを行っています。その他、包括協定締結市町等との懇談会やセンター長による包括協定市町訪問を行い、首長等との意見交換を行っています。

団体名

自治体	宮津市、宇治田原町、長岡京市、精華町、舞鶴市、南丹市、久御山町、京丹後市、京田辺市、和束町、相楽東部広域連合【覚書】、宇治市、岡山県津山市
公的機関等	京都府立林業大学校 林野庁近畿中国森林管理局 地方独立行政法人京都市産業技術研究所 一般社団法人京都経済同友会 京都信用保証協会 京都商工会議所 京都府中小企業団体中央会 文化庁地域文化創生本部 京都府立北桑田高等学校 京都府立農芸高等学校
民間	大阪ガス株式会社 カゴメ株式会社、キッコーマン株式会社 特定非営利活動法人 日本料理アカデミー 株式会社京都銀行



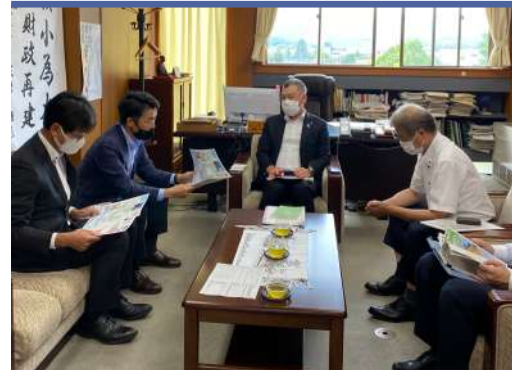
包括協定締結の様子〈京田辺市〉



包括協定締結の様子〈京田辺市〉



包括協定先訪問にて意見交換の様子〈与謝野町〉



包括協定先訪問にて意見交換の様子〈宮津市〉

01

セミナー事業

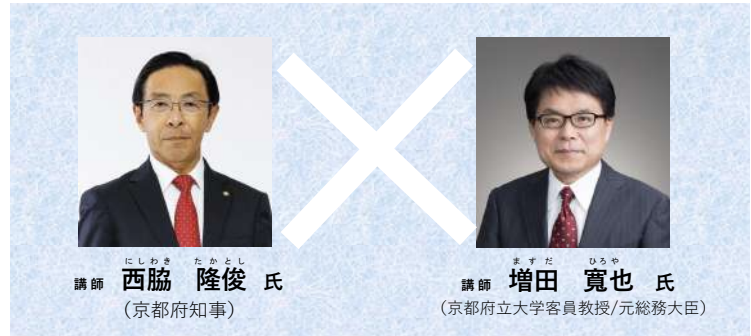
「京都府WITHコロナ・POSTコロナ戦略について」 共催

京都府知事対談

西脇隆俊知事×増田寛也本学客員教授

2022年1月30日、京都府立大学公開講座「京都府WITHコロナ・POSTコロナ戦略について」が本学の稲盛記念会館にて開催され、西脇隆俊京都府知事と、増田寛也本学客員教授・元総務大臣による講演および対談の実施しました。

当日はコロナ感染状況を踏まえて学外者の来場が制限されました。講演と対談の様子をおさめた動画を公開しました。



02

生涯学習講座の実施

桜楓講座の実施

本学では府民・地域住民に向けて大学の「知」を広く提供するために、生涯学習講座「桜楓講座」を毎年開催しています。2021年度について以下のテーマでオンデマンド形式により配信しました。

テーマ	講師	学部
『カリブ海のイギリス領から見た歴史と現代世界』	川分圭子 教授	文
『日本人は、荒唐無稽な「陰謀論」をどれくらい信じているのか？ :実験政治学という新たなアプローチからの挑戦』	秦正樹 准教授	公
『京都土壁案内-京都の建築にみる土壁の魅力-』	森田一弥 准教授	生命
『ビタミンDのはたらき:筋肉を元気にする』	亀井康富 教授	生命



03

市町村職員受け入れ事業

センターでは、2016年度より、自治体の若手・中堅職員を、原則2年間、研究員として受け入れています。今年度は精華町職員が引き続き在籍し、新たに京田辺市職員1名を加えて2名体制となりました。センターを支える中核人材として活躍しています。

派遣期間中に、各自が設定したテーマに沿って調査研究活動を行うほか、センターの日々の各種事業にも関わり、多様な主体との連携・協働を行うための人的ネットワーク構築や対話のためのファシリテーション実践、派遣元自治体と本学をつなぐ調整・コーディネートを行っています。

大学というフィールドで、自身の見聞を広げるだけでなく、外部のパートナーとの協働やプロジェクト運営を通じて、自治体職員としての立ち位置やマインドを問い直す機会ともなっています。

【主な業務】

- ・府大ACTRに関わる事務局業務
- ・大学・大学院講義、研究会への参加（公共政策学部川勝教授・文学部上杉准教授ほか）
- ・センター研究活動への参加（ワークショップや聞き取り調査への同行等）
- ・地域での学生の調査教育活動のサポート



府立大学にて報告会(精華町：長田萌)



オンラインにて司会進行
(精華町：長田萌)

精華町から派遣され、2020年度より2年間京都地域未来創造センターの研究員として様々な調査研究活動に参加させていただきました。

新型コロナウイルスの感染とともに歩んできた研修期間でしたが、制限がある中でも調査・研究の活動において、文理の分野を問わず幅広く経験できたと感じています。大学が持つ、自分の意見を持ち仲間と検討するという環境やフットワーク軽く新たなことに挑戦してみるマインドが私にとってとても刺激的な2年間だったと思います。

また、ここまでの経験を活かしながら、2021年度地域貢献型特別研究（府大ACTR）にて、公共政策学部の藤原准教授、川勝教授の指導の下、私自身が主体となって調査を行ってきました。単純な自治体職員という立場を離れて、外から自分の町を考えることは難しくも学びの多い経験でした。今後、精華町に戻った後も、この2年間で得た知識・経験を自治体に還元していけるよう精進してまいります。(精華町職員 長田萌)



右) ACTR交流会の司会進行
(京田辺市：今堀誠弥)

左) 住民ワークショップにて
ファシリテーターの様子
(京田辺市：今堀誠弥)



04

開催報告 場づくりLabo in 南山城 ～生業と地域～

自治体職員、地域づくり支援者、実践者等を対象に、住民主体のまちづくりの現場を体感してもらい、ディスカッションを通じて「地域づくり」を問い直すプログラムです。

2021年度は、宇治茶の生産地である京都府南部の南山城村で「生業と地域」をテーマに開催しました

【日程】2022年3月10日(木) 10時30分～16時

【場所】南山城村 旧田山小学校（現：田山生涯学習センター）

【参加者】15名（自治体職員5名・地域づくり支援者2名）

（京都地域未来創造センター教職員6名・大学院生2名）

プログラム

1 自己紹介

2 昼食：村を味わう（むらの弁当）

3 田山地区のむらさんぽ

〈訪問先〉

【吉岡克弘さん】茶・椎茸生産者

お茶を中心に村の生業を支える生産者

【東山商店】地域を支える集落の小売店

高齢者への配達や送迎など地域に根差したサポートを実施

【山崎桃子さん】村の移住交流拠点「やまんなか」スタッフ

ランチ会などで移住希望者と地域をつなぐ取り組みを実施

4 村のキーパーソンのトーク

「自分たちで村の価値をつくる～いままでとこれから～」

【兜岩知也さん】兜デザイン

道の駅みなみやましろ村のトータルデザイナー

【中窪良太郎さん】Uターン茶生産者・中窪製茶園

南山城紅茶と家業の緑茶づくりを行い催事外販にも取り組む若手茶農家

【岸田いずみさん】南山城村役場産業観光課 課長補佐

観光を切り口にした村づくりと村の住民が動き出す仕掛けづくり

当日案内役・進行：森本健次さん（（株）南山城 代表取締役）

5 振り返り

【参加者の声】

- ・行政が考える課題・政策と、現場の声を聴いたうえでの課題・求められる政策を考えるとときに生じる差異・違和感を解消できるように努めたいと感じました（自治体職員）。
- ・小さな成功体験を積み上げていくことや、足元にあっても気づきにくいものを、外ばかりに求めるのではなく掘り下げていくことの重要性を感じました（自治体職員）。
- ・外部からの協力の得方が上手だなと思いました。よく、外部の団体が住民の話し合いのファシリテートなどして目立ってしまうことがありますが、南山城ではそうしたことも森本さんをはじめとする地元の人が引き受けていたことが、根づいて行った要因だと思いました（自治体職員以外）。
- ・地域を魅せるための「デザイン」の視点の重要性を感じました（自治体職員以外）。



南山城村の様子



「地域創生人材育成プログラム」は教養教育のカリキュラムのひとつとして開講されてきた。講義「京都の地域創生」は座学により地域創生の基本的知識と各地の事例などを学び、「地域創生フィールド演習」では実地型の演習を2泊3日で実施した。演習先は京都府中北部地域の37拠点で、農林漁業、六次産業、建築デザイン、観光やコミュニティデザインなど多様な分野の専門家52名を「地(知)の案内人」として大学の外部講師として依頼した。学生は自分の希望する演習先を選択してグループ又は個人で出向き、現地での体験を通じてその地域の特色や案内人の生き方を学び、自分自身が地域に対して何ができるかを考えた。講義にはこれまでの6年間で約1000名が受講し、演習には約500名が参加した。参加した学生からは「誇りややりがいをもって仕事をしている人たちにたくさん出会った。人生において大切なものを深く考えさせられ視野が広がった。美しい景観や温かい人たちとのふれあい、それらを守るために自分に何ができるかを考えた」といった感想が聞かれた。また、卒業生からは「演習に行く中で自分の将来の道を見出すことができた。たくさんの選択肢の中から自分の強みを作ることができる挑戦の場だった」というコメントが寄せられている。

「地域創生フィールド演習」

https://www.kpu.ac.jp/category_list.php?frmCd=41-12-0-0-0



セヤノコでの稲刈り



天橋作事組でのちりめん展示



本藤水産での漁業体験



山野草について説明する学生



冬眠中の虫探し

地域創生学生チームの活動レポート

田歌舎（南丹市美山町）「春の子ども自然観察会」の開催

演習先の一つである田歌舎周辺の里山は、去年までは鹿の食害で山野草のほとんどが食べられてしまっていました。鹿よけの柵を張り巡らせたことで里山の自然が戻ってきています。私たちは1年を通じて植生調査を実施してきました。3月22日は取組みの成果として子ども向けの観察会を開催しました。親子連れの参加者の皆さんと一緒にお山で春一番の草花や冬眠中の虫を探したりクイズをして楽しんでいただきました。私たちも様々な年代の人たちと交流しながら自然を感じることができてよい時間になりました。

(生命環境学部森林科学科 大岩葉月、美濃部ゆず、宮崎大侑、安本琴音)

ウェブサイト発信力の強化

2020年度に開設したウェブサイトの機能を最大限に生かし、発信力を強化しました。
ACTR等の地域貢献研究活動の成果について、検索キーワード等を加えて検索機能を強化することで発信力の拡充を図りました。

WEBサイトはこちら



センター長	川勝 健志	副学長・公共政策学部教授
副センター長	宮藤 久士	生命環境科学研究科教授
統括マネージャー	上杉 和央	文学部准教授
データサイエンスアドバイザー	岩崎 雅史	生命環境科学研究科准教授
連携推進員（学部選出）	東 昇	文学部教授（前期）
	岸 泰子	文学部准教授（後期）
	玉井 亮子	公共政策学部 准教授
	平野 朋子	生命環境科学研究科准教授
田中 俊一	生命環境科学研究科准教授	
シンクタンク （調査研究等）	企画調整マネージャー	藤原 茂樹 公共政策学部准教授
	コーディネーター/上席研究員	鈴木 暁子
	研究員	長田 萌 市町村研修派遣職員(精華町)
	研究員	今堀 誠弥 市町村研修派遣職員(京田辺市)
	コミュニケーションデザイナー	永田恵理子
地域創生人材育成プログラム(coc+)	客員教授	奥谷 三穂
企画課	課長	菱木 智一
	主幹	鍋岡 崇
	副主査	下田 綾

2022.3現在